



医学教育学教室 〒181-8611 三鷹市新川6-20-2 電話: 0422-47-5511 (代) Fax: 0422-44-1930

Contents

- ◆ 海外研修プログラムのご紹介 教授 矢島知治 1
- ◆ 医学教育学用語集⑦ 客員教授 赤木美智男 2
- ◆ 医学教育学教室の新しい試み③ 准教授 江頭説子 2
- ◆ 卒業生便り⑥ (後半) 日本バレーボール協会メディカル委員長 林光俊 4

海外研修プログラムのご紹介

教授 矢島知治

杏林大学医学部では学生向けの海外研修プログラムを二つ展開しています。ひとつは、低学年向けのレスター大学医学英語セミナーで、もうひとつは海外クリニカルクラークシップです。

【英国レスター大学医学英語セミナー】

イギリスのレスター大学医学英語セミナーは、島根大学医学部救急医学講座教授の岩下義明先生の助言でレスター大学付属の語学学校が開発した夏季医学英語セミナーを、レスター大学と本学との協定締結をきっかけに本学専用の春季セミナーとして改編し、2017年から行っているものです。1年生から4年生までを対象とし、コロナ禍での中断があったものの、2023年の春には4年ぶりの現地開催が叶い 34 名もの学生が参加し、2024年もほぼ同数が参加する予定です。

主な内容は英語による問診（レスター大学医学部生の実習を担当している模擬患者さんも登場）、プレゼンテーションについての学習（ポスター発表の実技を含む）、NHSとして名高いイギリスの公的保険制度についての学習、の三本立てで、様々なゲストの講演や施設見学も含まれます。盛り沢山のメニューをこなしつつも、現地学生に混ざっての寮生活、近郊の名所旧跡へのデイトリップ、週末の個人旅行、プレミアリーグ観戦などでイギリス滞在を存分に楽しむこともできる贅沢なプログラムです。



ポスター発表会

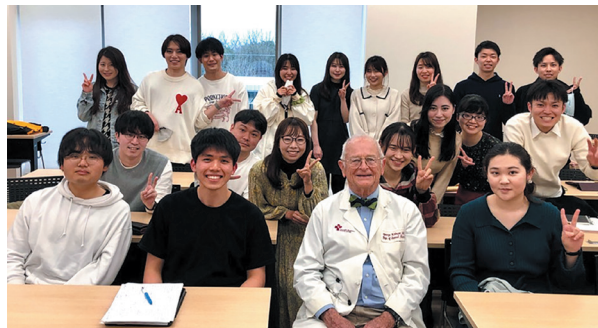


【海外クリニカルクラークシップ】

一方、6年生の春に行われるのが海外クリニカルクラークシップです。こちらは海外の医療機関で臨床実習に取り組む4週間のプログラムです。2023年の派遣先は、アメリカ、カナダ、台湾、フィリピン、イタリア、フランス、イギリスの7か国12施設で25名の学生が研修させていただきました。参加学生は、事前研修として春休みにカリフォルニア大学デービス校からお招きしたジョージ・マイヤー先生による臨床医学セミナーに一週間臨んだうえで現地に赴きます。クリーブランドクリニックやトロント大学などの世界に名だたる医療機関で、北米ならではの外科医療に触れたり、フィリピンで日本とは異なる条件で展開されている医療を見聞したり、イギリスの総合診療医の元で診療参加型実習をさせていただいたり、と実習内容は行き先によって異なりますが、それぞれが一回り大きくなって戻ってくるという点は共通しています。

ここで海外研修プログラムの意義について少し述べます。様々なことを学び、現地の言葉（特に英語）が以前よりも使えるようになるということも、もちろん意義深いことですが、もっと大事なことは、努力した成果としての達成感なのではないかと思われます。この成功体験が自己肯定感の向上につながり、結果として、自分を更に高める努力を自然に重ねることで、実り多き人生を送れるようになる、といった流れが期待されるからです。実際、標準的であった学生が研修をきっかけに積極的になり、卒業後は杏林大学医学部付属病院のベスト研修医になったりしています。

本学の使命は、本学の宝である学生を育み、良医として社会に送り出すことです。今回ご紹介した海外研修プログラムを含めて、本学の使命を果たすための様々な試行錯誤を今後も繰り返して参ります。関係各位におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



マイヤー先生による医学英語セミナー

医学教育学用語集⑦

フィードバック

客員教授 赤木美智男

もともとは制御工学で用いられる言葉です。あるシステムのアウトプットを目標値に近づけるために、アウトプットに関する情報(の一部)をシステムに再入力することを言います。簡単な例で言いますと、電気炬燵の温度を設定値に保つために、現在の温度を発熱装置に再入力する仕組みです(サーモスタット)。

この言葉が教育の領域にも導入されました。「システム」、「アウトプット」、「目標値」、「再入力」などを教育の言葉に置き換えると、フィードバックとは、「学習者のパフォーマンスを学習目標に近づけるために、パフォーマンスについての情報を学習者に返すこと」と定義できるでしょう。学生教育や研修医教育における指導者の役割として最も重要なのが、「フィードバックを適切に行う」ということではないかと思えます。では、フィードバックを適切に行うためには、指導者はどのような点に留意するべきでしょうか。

1. 学習者との良い関係をつくる。

フィードバックの目的には、すぐれていること・よくできていることを認める・褒めること(ポジティブ・フィードバック)も含まれますが、大部分は、できていないこと・足りないことを指摘して改善を求めること(ネガティブ・フィードバック)にあります。学習者としてはネガティブなコメントはあまり愉快なものではないでしょうが、それでもそのフィードバックを受け入れて、改善に向かって努力するためには、指導者が自分のことを大切に考えてくれていて、よりよいパフォーマンスができることを望んでいるという信頼が重要です。

2. 目標を共有する。

上記のように、フィードバックは学習者のパフォーマンスを学習目標に近づけるために行うものですが、その目標が学習者と指導者で異なっていると、フィードバックはちぐはぐなものになってしまいます。

3. コメントの対象は学習者のパフォーマンスであって、人格や医師としての適性ではない。

たとえ厳しい指摘であっても、あくまでも学習者のパフォーマンスに関することから逸脱しないようにしましょう。「医者に向かないんじゃないか?」などというのは、指導の域を超えたハラスメントです。

4. 日常的に、気軽に行う。

あまり大げさに考えずに、「ここ、もうちょっとこんな風にするといいよ」というような感じで、頻繁に行うといいでしょう。ただし、学習者が何かを行うと「必ず指導者から何か言われる」というのでは窮屈かもしれません。

5. まず学習者自身の考え(自己評価)を尋ねる。

「今の医療面接、どうだった?」というように、まずは学習者自身が自分のパフォーマンスについてどう考えるかを聞いてみましょう。改善すべき点が自分でもわかっているならば、あえて指導者から指摘する必要はなく、「そうだね、次はその点に気をつけよう」でいいわけです。ただ、これも毎回固定的に行うのは弊害もありそうです。非常によくできたときには、すぐに「今のはとてもよかった」と言ってあげる方が適切でしょう。

この他にもフィードバックに関するいくつかのスキルがあります。臨床研修指導医講習会では、「PNP法」なども紹介されるかと思いますが、あまり形にこだわらず、指導者としての思いを伝えれば、学習者もそれに応えてくれるのではないでしょう。

医学教育学教室の新しい試み③

2023年度の医学部3年生(以下M3)の地域医療体験は、医療や福祉の支援等を受けながら地域で暮らす人々の日常を知り、地域医療・福祉の充実に貢献できる人材の姿勢や、医師としての社会的役割を理解することを目的として実施しました。

M3地域医療体験

～地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし～

准教授 江頭説子

具体的には、NPO法人「境を越えて」の協力のもと、当事者の方と1日をともに過ごす体験を軸に、事前学習、事後学習でプログラムを構成しました。具体的なプログラムは以下となります。

M3地域医療体験 プログラム概要

対象：医学部3年生 計118名

1. 事前学習：9月2日(土)9:30～17:30

導入テーマ：

考えよう、障がいてなんだろう？

当事者の方に大学にお越しいただき、テキスト、透明文字盤
下記テーマで講義を受けました。



◆地域で暮らす



当事者である講師、長田さんより
地域で暮らすための制度や人との
かわりについての講義

◆地域で生きる



当事者である講師、高野さんより
地域で生きることについての講義

◆コミュニケーション



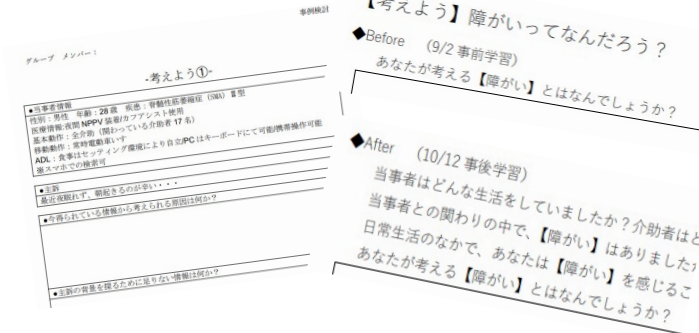
実際に透明の文字盤使って練習

◆医療の視点、介助の視点



従事する方からの実践的な講義

◆事例をもとに考えよう



境を越えて (sakaiwokoete.jp)

境を越え、
共に在ることを社会に発信する。

誰もが重度障害当事者や、
その家族になったとしても、
自分らしく生きられる社会、
安全に、安心して生活できる社会に
寄与することを目的としたNPO法人



2. 体験学習：9月9日(土)～10月7日(土)

各土曜日に学生が2名一組となり約30名ずつ当事者
のお宅で体験をさせていただきました。

区内ALS患者

学生の体験学習に協力

地域医療の充実願い

社会

体験の様子が掲載されました

区内白鳥に住むALS（筋萎縮性側索硬化症）患者の高野元さんの自宅に9月9日、杏林大学（三鷹市）医学部の学生が訪れ、食事介助や交流などの体験学習を行った。同学習は、重度障害者支援を行うNPO法人が医療・福祉を学ぶ学生を対象に進めるプロジェクトの一環。高野さんは「医師を目指す人が地域医療を知ることは重要」と思いを語った。



文字盤を使って会話をする高野さん（右）と中山さん

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報誌タウンニュース 2023年9月15日

3. 事後学習：10月12日(木)13:15～17:30

目的：地域で暮らすこと、それを支えることを
自分ごととして考えることができる

◆体験の共有

体験学習前には「重度障がい者と接したことがないのでどう振る舞えば良いか不安」「コミュニケーションがとれるか不安」「無意識、無知の行動や言動が失礼になり傷つけないか不安」等、不安が多く語られていました。しかし、ベッドから車椅子などへの移乗をサポートするロボット(Hug)を使い介助をしたり、外出に同行したり、一緒にゲームをしたり……色々な体験をした学生たちは生き活きと体験を振り返っていました。



◆講義と対話の時間

「元気な赤ちゃんを産んでね」という当たり前のよう
に使われている言葉には差別が含まれている？そんな
問いかけから講義が始まり「障がいとは何か？」につ
いて対話をしました。当事者の方とともに過ごし、声
を聴いてきた学生たちは、社会にある障壁に気づいた
ようです。このようにNPO法人「境を越えて」を始め、
多くの方のご協力で学生は貴重な体験をすることが
できました。いつか、どこかでこの体験が活かされるこ
とを願っています。

8度のオリンピックチャレンジ (後半)

**整形外科元非常勤講師
(公財)日本バレーボール協会行政委員
医学博士 林光俊 (1980年卒)**

転機は1992年バルセロナのオリンピックでした。幸運にも日本バレーボール協会松平会長のご指名で男子チームの帯同ドクターを務めることになりました。フランスでの事前合宿とバルセロナオリンピックで約1ヶ月以上の海外遠征で、行ったきりスズメ状態でした。オリンピック会場は大変な盛り上がりで、各国が国を挙げての応援で、我らも日の丸のために戦うというプレッシャーを強く感じました。

開会式ではアメリカバスケットドリームチームのマイケル・ジョーダンやマジック・ジョンソン、陸上のカール・ルイスも同じフィールドにいて、世界中で10億人がテレビで見ている入場行進に自分もその一員として参加できた晴れがましさを、この時のオリンピックの印象が非常に強く残りました。また、選手たちは大会に命をかけて臨んでおり、ドクターもそれに追従して遅れをとらないように自身を鼓舞しました。

当時、中垣内祐一選手がジャンパー膝に罹患していましたが、相手チームに弱点を見せないように痛み止めの注射治療を試合前やセット間に体育館の片隅で隠れてしました。

バルセロナオリンピックでの印象が強く、以後、1996年アトランタ、2000年シドニー、2004年アテネと三大会連続でチャレンジするも、日本男子バレーはオリンピックの出場権を得られませんでした。四年周期のオリンピックが終る毎が自分の転機でしたが、それでも継続できたのは新監督が来る度に、私を専任チームドクターに指名してくれたからでした。

北京オリンピックで再び代表に

2008年に北京でオリンピックが開催されました。この世界予選は劇的でした。初日にイタリアチームに負けましたがその後は快進撃で、当時全く勝てなかった南米の強豪アルゼンチンをセットカウント3対2のフルセットの末に撃破して北京オリンピックの出場権を得、16年ぶりで晴れ舞台に躍り出ました。この感動はスポーツドクターとしての最高の栄誉と思います。

この大会期間では、試合中に主要選手が膝関節の半月板損傷を起こしました。選手・監督と相談して本人がどうしてもやるということで、血腫を抜いて局所麻酔剤を試合前に注入して試合に出しました。しかし、試合途中で麻酔も切れてきて、選手の調子がガクンと落ちてきたので監督にもう無理、と眼で合図し選手交代となりました。ドクターとしての業務はここでは終わりません。帰国後、同門の今給黎先生の東大和病院に手術のアポ入れをして、すぐに半月板の切除縫合術を行い、その後のリハビリフォローアップも行い、半年後には日本人で二人目のイタリアでプロバレーボールとして活躍した姿を見ることができました。

ほんの一瞬でも選手たちの雄姿を見るために、自分はスポーツ現場で黒子に徹し続けてきました。この仕事を始めた当時スポーツ現場ではドクターは相手にされない存在でしたが“諦めないで継続した”ことで新たな局面が生まれました。継続して少しでも頂点に近づけるような創意工夫をしてきたことが自分の一番のレガシーであったと思います。

東京オリンピック

2020年東京オリンピックの時は自身として8度目のオリンピックチャレンジでした。ここではバレーボール競技会場の医療責任者を務めました。

これまでの怪我や内科的疾患の対応とは裏腹に、この時は救急搬送、特にファーストコンタクトを担い、連日搬送訓練を行いました。日頃のドクターでは有り得ない経験でした。看護師のみならずボランティア・学生などの医療チームではコミュニケーションを優先したチーム作りをしました、これもまた良い思い出です。

最後に、選手を診るにあたり、各スポーツの競技の特性を理解しておく必要があります。コンタクトスポーツであるのか？長時間スポーツであるのか？などはリハビリや競技復帰の目標設定に重要です。

後輩の方々には“スポーツ医学”をぜひ勉強していただき、患者である選手を現場に復帰させる新たなスポーツドクター誕生を望む次第です。

整形外科医としてのみならずスポーツ現場で活動する基礎をお教えくださいました、恩師石井良章先生のご指導に感謝いたします。

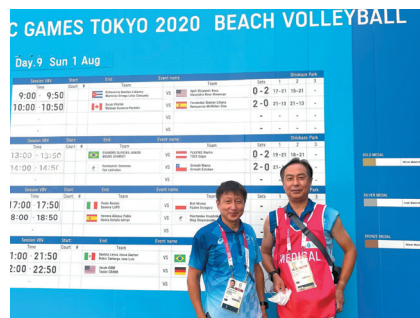
15回バルセロナオリンピック派 日本男女バレーボール選手発表



バルセロナオリンピック



北京オリンピック



東京オリンピック 今給黎先生と

編集後記

COVID-19が落ち着き、マスク着用等の細かい指示はあるものの、今年度は4月から平常授業に戻りました。部活動も再開、東医体も開催され、そのせいか学年暦後半は松葉づえ、ギブス姿の学生が妙に目につきました。
(編集部)